

18 鶴指小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

◆位置

鶴指小学校区は市の中央よりやや西部に位置し、地区の西側は江戸川に面しています。

◆地形・土地利用

地形は、主に後背湿地で構成され、旧水田の埋め立て地区となっています。地区の北側は第一種中高層住居専用地域等の住宅地となっており、中高層マンション等が多く建ち並んでいます。

◆都市基盤

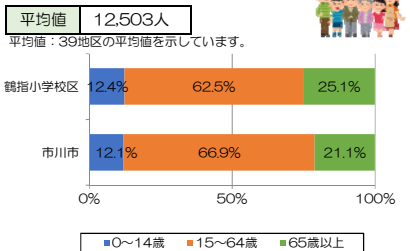
地区の東側には外環道路、県道283号線（産業道路）が通っています。また、地区内には、JR本八幡駅からの京成トランジットバスが通っています。

(3) 人口・建物概況

◆人口

年齢別割合	鶴指小学校区	市川市	割合※
人口総数	9,183人	487,621人	1.9%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

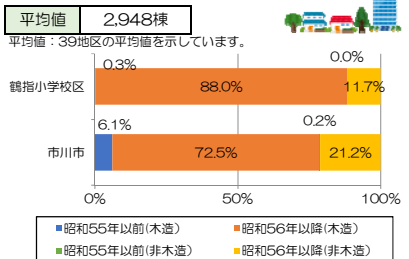


地区の人口は、全地区の平均人口より少ないです。また、市全体と比較すると65歳以上の割合がやや高く、高齢の世代がやや多い地区となっています。

◆建物

構造別割合	鶴指小学校区	市川市	割合※
建物総数	2,785 棟	114,958 棟	2.4%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合



地区の建物は、全地区の平均棟数よりやや少ないです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合が高いです。また、木造建物が多い地区となっています。

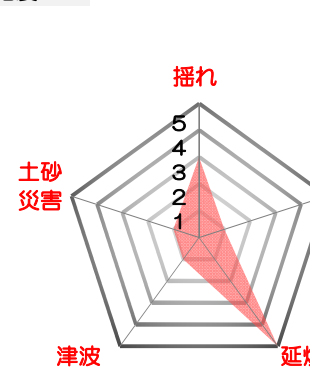
(4) 災害リスク評価

市川市防災カルテ <

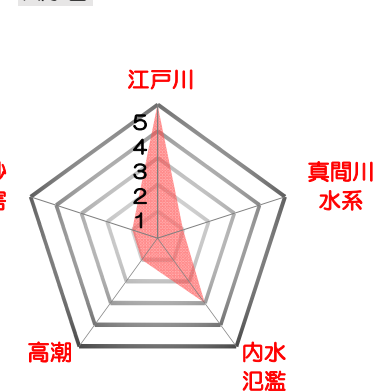
鶴指小学校区 >

◆災害に対する弱み（マイナス面）

地震



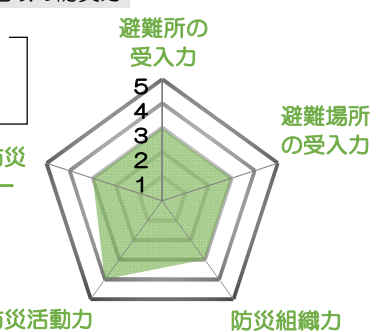
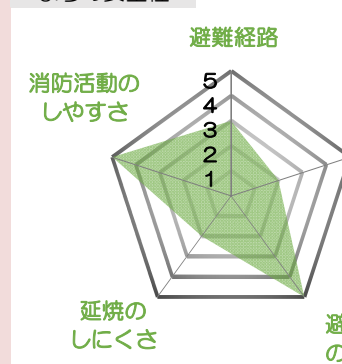
風水害



◆災害に対する強み（プラス面）

まちの安全性

地域の防災力



◆評価

鶴指小学校区は、地震災害については、最大震度6弱の揺れが予測され、延焼による危険性が高い傾向にあります。また、風水害については、江戸川に面していることから、江戸川の氾濫による浸水の危険性が高い傾向にあります。一方で、まちの安全性については、避難所の近さや消防活動のしやすさは高い傾向にあるものの、緊急車両通行可能や延焼のしにくさは比較的低い傾向にあります。また、地域の防災力については、防災活動力は比較的高い傾向にあります。

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
鶴指小学校	-		
第八中学校	-		

◆避難場所

名称
鶴指小学校
第八中学校
江戸川河川敷緑地

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設（公設）	大洲保育園		医療救護所	なし
	大和田保育園		関連施設	なし
			-	
			-	
			-	

要配慮者利用施設（民設）

6



※要配慮者利用施設は浸水想定区域内に立地する施設を示しています。

(6) 被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

	想定項目	鶴指小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	1.6%	3.6%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	12.8%	16.0%
	焼失棟数の割合	6.5%	4.6%
	浸水棟数（津波）の割合	0.0%	0.8%
人的被害	死者の割合	0.0%	0.1%
	負傷者の割合	0.7%	0.9%
	避難者の割合	5.2%	7.3%



◆風水害（被害を受ける割合）

	想定項目	鶴指小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	100.0%	52.0%
	浸水棟数（真間川）の割合	0.0%	13.6%
	浸水棟数（内水）の割合	28.0%	20.5%
	浸水棟数（高潮）の割合	0.0%	1.5%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、木造建物が多いこともあり、焼失棟数の割合がやや高い傾向にあります。また、人的被害については死者、避難者はほぼ同程度ですが、負傷者については、市全体よりやや少なくなっています。

一方で、風水害については、江戸川の氾濫や低地であることから内水氾濫の影響が大きくなっており、市全体と比較すると浸水棟数も多くなっています。

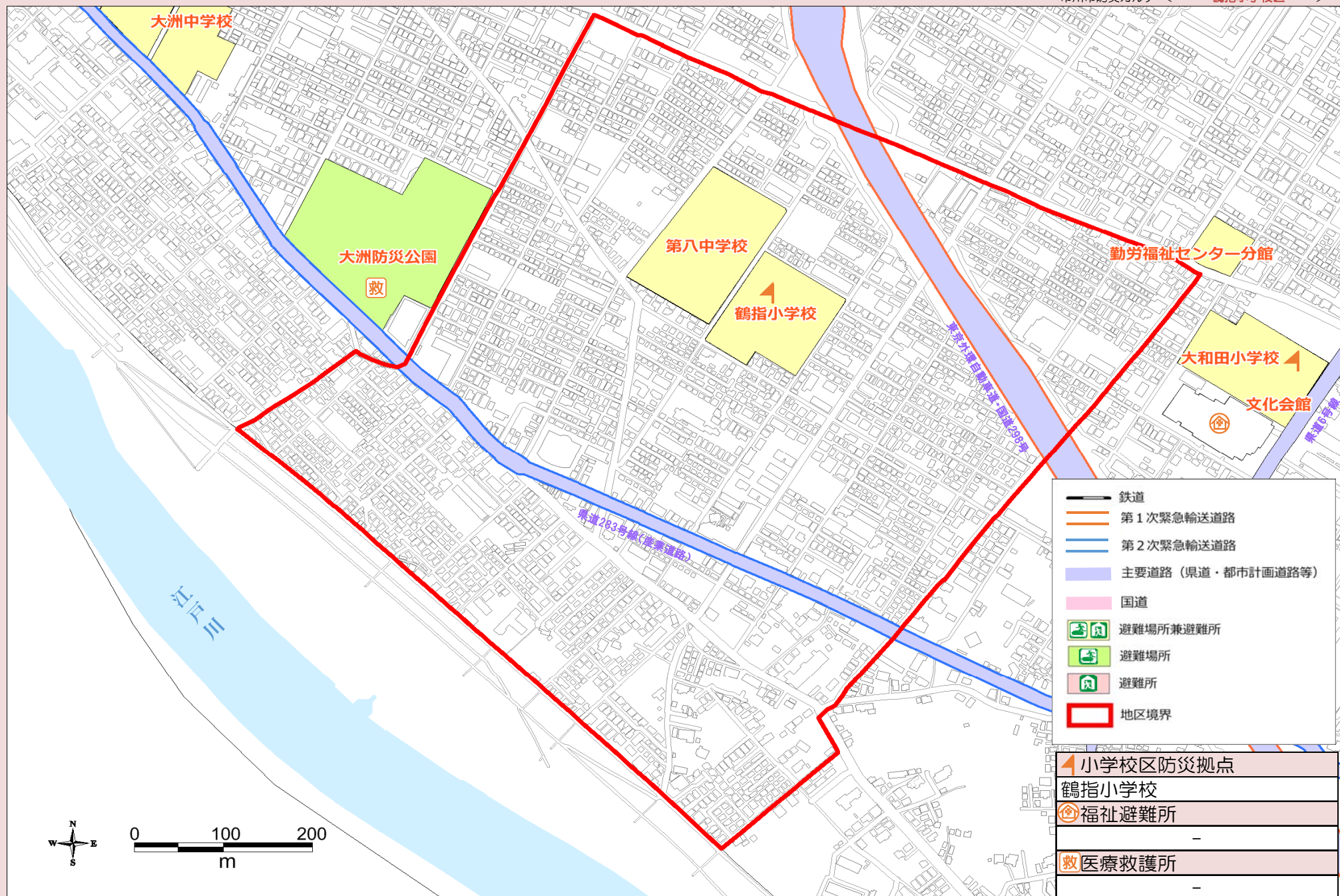
(7) 防災上の課題

項目	課題
地震	地区の一部において、震度6強の揺れが予測され、延焼による危険性が高くなっていることから、延焼対策や初期消火対策等を行うことが重要です。
風水害	地区の南西側に江戸川が面しており、江戸川の氾濫による浸水被害の恐れがあることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区内には、狭い道路が多いことから、緊急車両が通る道の確保が重要です。また、延焼遮断となる空地が少ないことから、初期消火の対策が重要です。
地域の防災力	地区内では防災活動力が高い傾向を示していることから、防災活動力の強みを活かし、さらに防災活動に取り組んでいくことが重要です。

(8) 防災対策の方向性

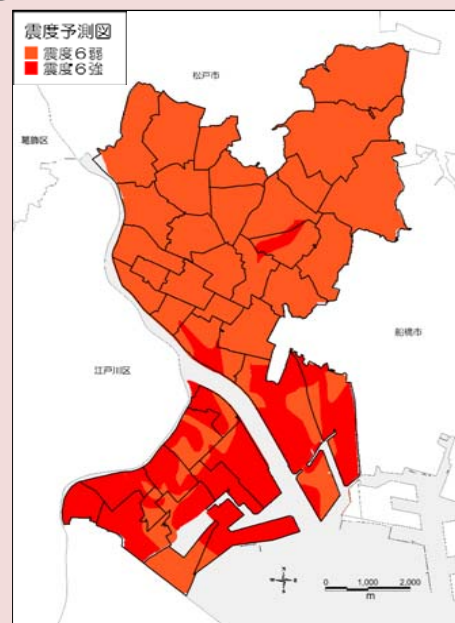
項目	取組の方向性
地域の取組	地区内では、狭い道路が多く、緊急車両が通る道の確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用したブロック塀等の倒壊による災害防止と、日頃から安全なルートを確認しておくことが重要です。 また、災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、比較的高い防災活動力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、延焼の危険性が最も高いことから、住宅用消火器の設置や感震ブレーカーの設置等、初期消火等の対策を行うことが必要です。また、住宅用火災警報器の設置を行う等、火災発生時の逃げ遅れ対策を行うことが重要です。 一方、風水害に対する備えとしては、江戸川の氾濫による浸水被害が考えられることから、大雨時等の避難場所や避難所について確認しておくことが必要です。また、自宅等への浸水を防ぐため、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置、土のうステーション等を利用した土のうの設置による浸水対策の対策を行うことも重要です。 緊急車両が通行できない可能性があることから、救急医療品等をあらかじめ準備しておくことが必要です。

(9) 防災マップ



(10) 基礎資料

①市全域の震度分布図



本カルテには、東京湾北部を震源域とする地震が発生した場合の結果です。
 震度分布図を見ると、市の北部は震度6弱、南部は震度6強と予測されています。

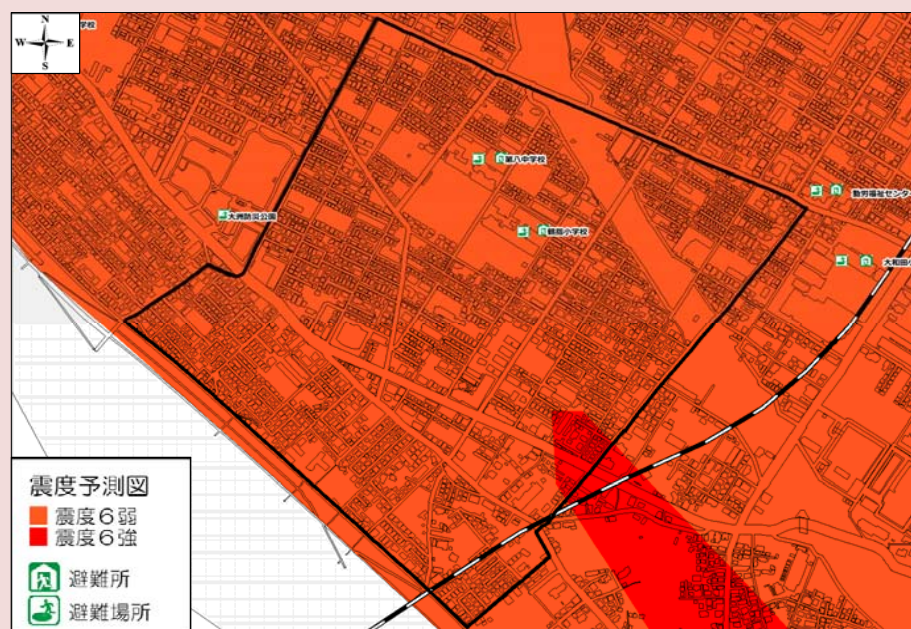
想定地震	東京湾北部地震
マグニチュード	7.3 (震源深さ：20km程度)

▼震源

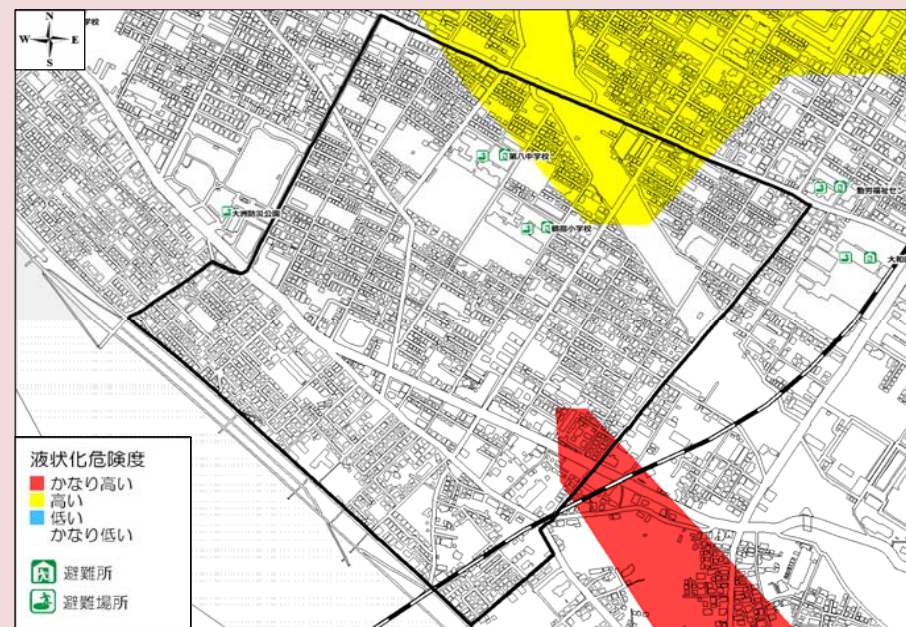


※本結果は市川市地震被害想定結果(平成24年度)に基づいています。

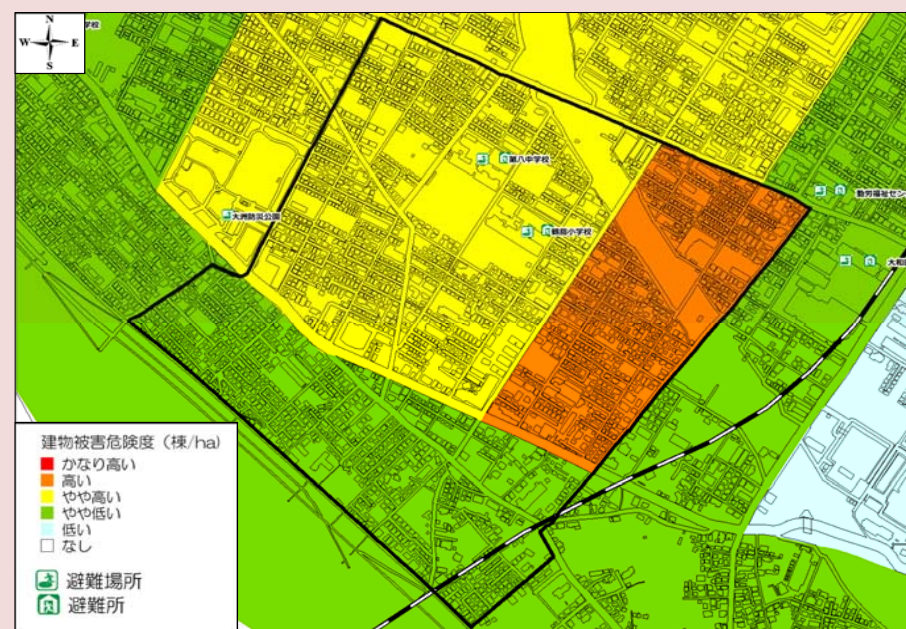
②震度分布図



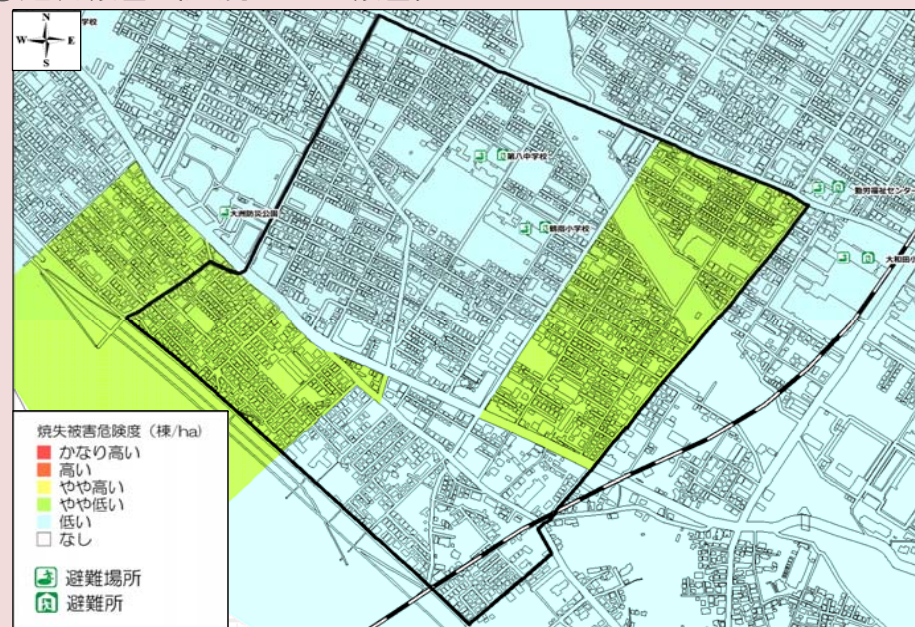
③液状化危険度



④建物被害(揺れ・液状化による被害)



⑤建物被害（延焼による被害）



⑦浸水想定概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ近隣の避難所及び避難場所について確認しましょう。

また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

水の深さ

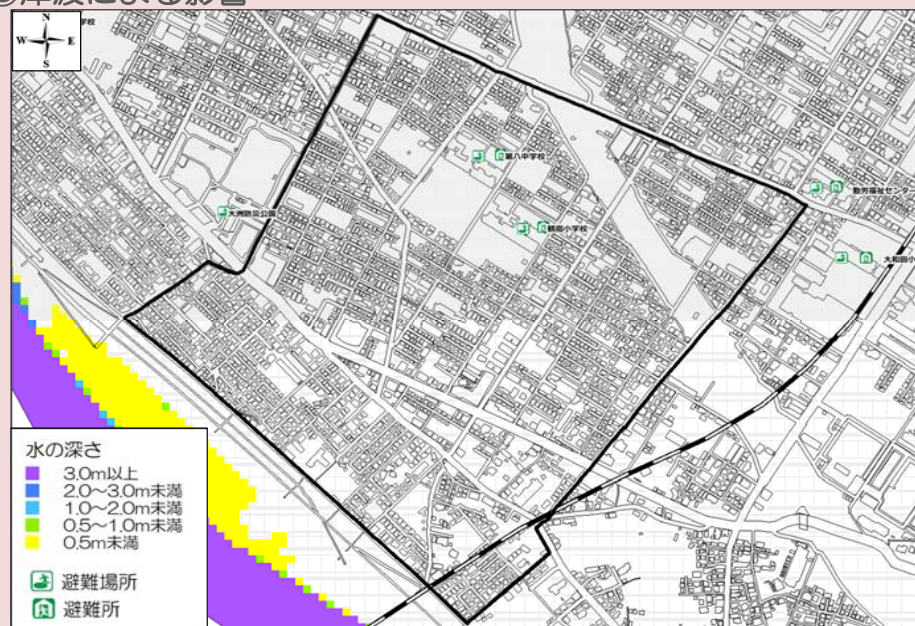
- 水の深さが3.0m以上
- 水の深さが2.0～3.0m未満
- 水の深さが1.0～2.0m未満
- 水の深さが0.5～1.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

浸水の目安



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

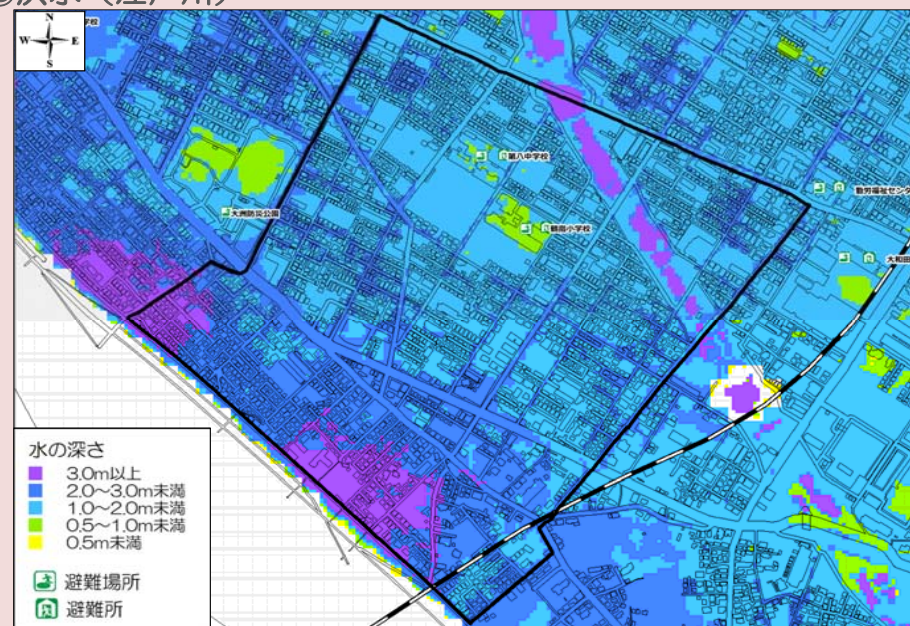
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

平成24年4月：千葉県

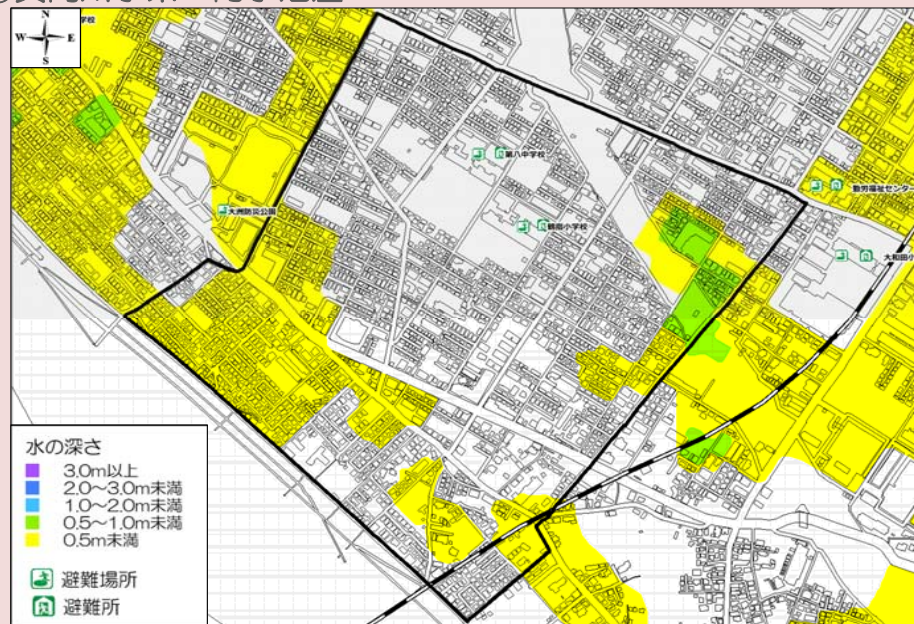
⑧洪水（江戸川）



平成29年7月：国土交通省

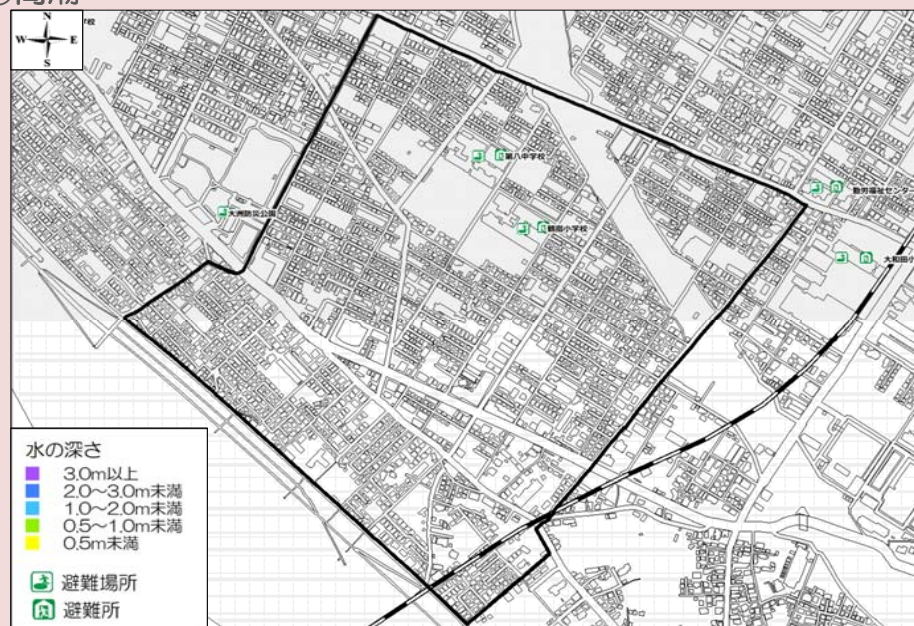
◆メモ

⑨真間川水系・内水氾濫



平成18年3月：千葉県、市川市

⑩高潮



平成21年4月：国土交通省

